

盆踊りの感想

日本文学文化 4年 ロウイゲツ（中国）

今回の盆踊りは私にとっての初体験ですが、想像中のイメージと違って、賑やかでみんなと一緒に踊りました。

行った前に先生のアドバイスを受けて、ネットで盆踊りに関して少し調べました。盆踊りはもともと死者を供養するために行われる行事ですが、現代の発展に至って、すでに夏のお祭りのような形になっていきました。みんながそれぞれのところから集まって、綺麗な浴衣を着て踊るのはまさに一般常識になっていました。

去年、箱根旅行に行った時、泊まる場所の女将さんから無料な浴衣をもらいましたが、なかなか使う機会がなくてとてももったいないと思いましたので、今回のいいチャンスをとらえて嬉しくてたまらないでした。前には何回も着物を着たことがあります、今回はこの前と違って、浴衣を着ると日本現地の行事に参加することとなりますので、私にとって特別な意味があります。テレビで何回も日本の可愛い女の子たちの浴衣姿を見ましたが、浴衣教室で各国からの女の子たちの浴衣姿の雰囲気はやはり少し変わったような気がします。みんなは全員浴衣を着ていますが、それぞれの風味があります。浴衣教室もまるでミス・ワールドコンテストの楽屋みたいで、各自の登場を真剣に用意しています。

全員揃った後、みんなが興奮の気持ちを持ちながら盆踊りの会場を向かって行きました。私は同行の何人かの後姿の写真をそっと何枚も撮りました。浴衣の味わいはやはり女性の細やかでやや照れるような足取りに違いないと思っています。

ようやく会場に着いて、場内のテンションはすでに盛り上がっていました。どうか、一緒に踊らないかと先生に誘われて、やや不安と緊張感はありますが、最後に試してみようかの心持ちで踊り行列の中に入りました。会場の中間に高い舞台が建てられて、上には飾りのような赤い提灯がいっぱい紐に掛けられて遠いところまで伸びていきました。周りの人たちは司会者の指示に従って、音楽とともに踊っています。舞台上に踊りを教わる先生はいますが、同じ音楽は何回も繰り返したにしても、私はどうもその振る舞いを覚えられないでした。

諦めようと思った時、周りの人を見てなんかおかしい動作をしているようで、いつの間にか自分への自信を幾分取り戻してやり続けていました。

しばらく踊り続けたあと、汗が出てしまいましたので、あたりの商売を見に行こうかと友達を誘って行きました。あの時の気分はまるで中国の夜店に戻ったような気がします。中国の夜店は友達同士の溜まり場といっても過言ではないです。まさか日本でもそういう気分になれるのかと考えたこともないので、驚くほど嬉しいでした。

日本の社会に溶け込むことによって私は前よりもっと日本のことを知るようになりました。日本人は自分の伝統文化を大切にする精神に感心した上、これから自分の小さな力を捧げてどうか中国の伝統文化を保つことを考えてきました。